

論文審査及び最終試験結果報告書

課 程 博 士

地域社会研究科 地域社会専攻 地域政策研究講座

学 籍 番 号

20GR105

氏 名

時本 英知

審 査 委 員

(自署又は記名押印)

主 査

増田 貴人



副 査

高瀬 雅弘



副 査

上井 良浩



(論文題目)

知的障害者スポーツコーチにおける実践知獲得モデル作成の試み

知的障害者スポーツは、歴史的経緯も影響し、身体障害者スポーツと比べ振興が遅れていることはしばしば指摘されている。本研究は、その遅れの要因のひとつである人的環境要因に焦点をあて、知的障害者スポーツコーチがどのように養成され、またコーチ自身がどのように自らの専門性を認識しているのか明らかにすることで、コーチとしてどのように実践知を獲得しているのかモデルを試作し、知的障害者スポーツコーチが熟達していく過程を示し、知的障害者スポーツ振興につなげるための示唆を得ようとしたものである。

本研究は、研究の背景と目的を示した第1章、障害者スポーツにおける知的障害者スポーツの歴史的経緯と現状を論じた第2章、知的障害者スポーツコーチの養成に大きく関与する2団体（公益財団法人日本パラスポーツ協会とスペシャルオリンピックス日本）それぞれのコーチ養成プログラムの研修内容を検討した第3章・第4章、インタビュー内容のコーディング分析による知的障害者スポーツコーチ当事者自身の自らの専門性についての認識を明らかにした第5章、楠見(2012)による「仕事の実践知獲得モデル」をもとに知的障害者スポーツの実践知獲得と熟達化のモデル作成を試みた第6章、で構成されている。

その結果、知的障害者スポーツコーチの養成研修では、個々のニーズに応じた支援やコミュニケーションスキル、インクルーシブな活動を展開する意識などが重視されていたことがうきばりとなった。また知的障害者スポーツコーチ自身も、参加者主体やライフステージを見通すこと、個別化、コミュニケーションといった点を自らの専門性とする暗黙知を得ていたことが示され、研修等で得られた形式知と形式知と暗黙知の往来と知識変換をとおして、それぞれの知がより強められ熟達化につながっていることを、モデルの試作をとおして見出した。

(最終試験結果の要旨) 最終試験実施日：令和5年2月4日

本研究の知見は、知的障害者スポーツのコーチ養成の充実をとおし、知的障害者の地域参加促進につなげていく点において多くの示唆を提供すると考えられる。また障害者スポーツの中でも、身体障害者スポーツのように専門性が明確になっているとは言い難い知的障害者スポーツの専門性を、明確にしていくための貴重な資料となり得ると考えられ、高く評価できるものである。

公開審査会・最終試験においては、試作されたモデルの妥当性やその応用可能性、本研究成果の地域社会への還元が中心に議論・指摘されたが、それらはいずれも本研究を今後さらに発展させるための課題として位置づけられるものであり、主査及び副査の協議により全員一致で合格が適当と判断された。